

クローバー通信

「女性医師へのメッセージ」

獨協医科大学第二外科 窪田敬一



私の妻も医者である。眼科医として、忙しく毎日過ごしている。私は、獨協医大に単身赴任して以来、それ以前も含め、家事、育児とすべて妻に丸投げであった。それでも、時々不平・不満を言うことはあっても、充実感を持って、毎日を楽しんでいるようである。女性が医師、妻、母親として、仕事を継続するうえで、子育てを支援する環境に加えて、置かれた環境で充実感、満足感を持って働ける、精神面での環境整備が必要だと考えている。

私の科には赴任以来、5名の女医が入局し、現在4名が仕事を続けてくれております。一人は子育てをしながら頑張っています。私の科は朝早くて夜遅いことで有名ですが、一生懸命やってくれており、女医個々人の技量に任せて仕事をこなしてもらっています。その結果、こちらの要望を満たすものであり、満足しております。獨協医大卒業生の約4割は女性であり、彼女らが外科系にきてくれないと外科系の科は衰弱の一途を辿ることになります。病院として、24時間保育、病児保育の完備は必須であります。外科系領域で働く女医が、子育てしながら周りに遠慮気兼ねすることなく、精神的に充実感を持って、働き続けられる環境の構築が必要です。今後、当科の女医を含むすべての女医が楽しい家庭を持って、子育てしながら仕事を enjoy してくれることを期待しています。

第2回 クローバー交流会の報告

2012年5月26日、女性医師支援センタークローバー内において、第2回クローバー交流会を開催しました。脳神経外科の藤山陽子先生と、整形外科の阿久津みわ先生から医師としてどのようにキャリアを積んできたか、仕事と家庭を両立するためにどのようなライフスタイルで過ごされているのかを具体的にお話いただきました。その中で強く印象に残ったのは、外科医としての仕事に対する熱意・誠実さ（職人魂とも言いましょうか？）でした。また、家族や周りへの感謝の気持ちを常に持ちつつ、自分にあったスタンスで仕事を続ける努力をしながら、子育ても、女性であることも楽しんでいることでした。

今回は小さなお子様を連れて参加して下さった先生が3人おられ、ミルクを飲んでいる赤ちゃんの姿やプレイマットの上で遊んでいる小さなお子さんの姿を横目に、終始和やかなとてもいい雰囲気で行うことができました。

学生を含めた計21人の参加をいただき、前回に引き続き盛況に会を終えることができました。

今後は男性医師の大変さ！？や職種の違い相手と結婚したらどんな生活？・・・などもテーマに盛り込んでみたいと考えています。男女問わず、より多くの、幅広い世代の方々と交流できる場になれることを願っています。

ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。また参加希望がありながら出席できなかった方、今後出席希望のある方、次回の交流会でお待ちしています。

（女性医師支援センター 坪井弥生）



〈交流会参加者の声〉

「自分一人で、こんなママでいいのかなと思ってた部分がいっぱいあったのですが、みなさんのお話を聞いてまだまだやれそうと思いました。」

「常々、育児と仕事のバランスで悩んでいましたが、先生方のエネルギッシュなライフスタイルに勇気をいただきました。ありがとうございました。」